

瑞穂地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年7月15日(金) 19:00~20:25

2 会 場 瑞穂地区公民館

3 出席者 地元出席者 27名

市側出席者 17名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、木村教育委員会事務局次長、渡邊秘書課長

<気高町総合支所>鈴木支所長、橋本副支所長(司会)、村上市民福祉課長、木下産業建設課長

<事務局>福島協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局長) ※チラシに基づき説明

5 第10次総合計画についての説明

(企画推進部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 小学校の統合問題について

<地域課題>

平成27年6月「市の校区審議会の中間まとめ」の中で、「瑞穂小学校他4校が小規模化に伴う教育効果が懸念される。」とされた。この課題を解決するため、地域としても、どのように取り組んでいくか検討していく必要がある。

そこで、次のことについてお聞きし、今後の取組の参考としたい。

- ・他校の取り組み状況
- ・校区再編する場合の基本的な考え方
- ・校区審議会の最終取りまとめ時期
- ・統合を「する。しない。」は、地域の意向を尊重するのか。

<担当部局の所見等>

【教育委員会】

[他校の取り組み状況]

福部中校区、鹿野中校区では「教育を考える会」を設立され、将来の学校のあり方について意見集約されました。これを受け、校区審議会での審議を経て、教育委員会に答申が出されました。福部地域では今年4月に幼小中一貫校の福部未来学園が開校し、また鹿野地域では先月、小中一貫校に向けた具体的な議論が開始されたところです。

神戸小校区、明治小校区、逢坂小校区でも「教育を考える会」を設立され、現在も地域での検討を進めておられるところです。

[校区再編する場合の基本的な考え方]

教育委員会では、学校と家庭と地域が一体になり、子どもたちの育みはもとより地域の将来を見据え、各地域の実情に応じた活力ある学校づくりを推進することとしています。そのため、保護者や地域の多様な思いを地域全体の意向として集約していく、「学校のあり方を考える検討組織」づくりを進め、そこで導き出された責任ある方向性を尊重したいと考えています。

[校区審議会の最終取りまとめ時期]

今年6月から第13期校区審議会の審議が始まりました。校区審議会では、取りまとめ時期は定めておらず、十分に地域の実情も考慮した審議を尽くされた段階で答申されることとなります。

[統合を「する。しない。」は、地域の意向を尊重するのか。]

地域において、子どもたちの将来を見据えた議論が十分なされ、魅力ある学校のあり方が総意として示されるのであれば、尊重すべきであると考えます。

(地元意見)

この地域課題について、少し説明します。

平成27年6月に、地区の区長会で、校区審議会の中間まとめが報告されました。その中で、「瑞穂小学校他4校が小規模化に伴う教育効果が懸念される」との報告がされています。

瑞穂小学校は今、地域の中心であり、高齢者に弁当を配る配食サービスや運動会、文化祭、ふれあい農園などの活動の中で欠かせない存在になっています。小学校の授業の中でも、地域住民と小学生が一緒になって、米作りやはま茶、生姜の栽培に取り組んでいます。

今後、小学校の児童は現在より少し増え、しばらくの間は50名程度で推移すると考えられますが、小規模校には変わりありません。将来に向けての小学校の教育のあり方と、地域とのつながりをどのように考えていくか、地域としてどのように取り組んでいけばよいのかを検討していくためにも、現在小規模校と言われている瑞穂ほか4校の取り組み状況や、校区再編の基本的な考え方、また、校区審議会の答申があるならばその時期、もし統合するという方向性が市から出た時に地域の考えや意見は尊重されるのか、といったことを聞きたいです。

今後の瑞穂地区における地域の取り組みや小学校とのつながりをどのように考えていくかといった事の検討材料にしたいと思っています。

(教育委員会事務局次長)

校区再編にあたっては、本市は、学校規模、通学距離・時間、地域性の3つの視点を考慮することとしています。

学校規模について、国は適正な学校の規模を12学級～18学級と位置づけています。これは平成27年度1月に文部科学省から示されたものですが、学校の現状や規模による教育効果、小中学校にあっては地域との関係性、少人数教育の効果、中学校にあっては発達段階に応じた交流関係や部活動の充実などを踏まえ、本市では、小学校・中学校ともに学校の標準規模を6学級～18学級としています。この考え方は、校区審議会等でも念頭において審議されています。

次に、通学に関する基準についても、小学校は4km、中学校6kmという国の規定があり、これを基準にして通学に要する時間を大体1時間以内としています。これは、交通手段や安全性を考慮して検討することとしています。この他にも、通学路線の危険性が著しく高いと思われるような地域についても考慮したいと考えています。

地域性については、学校の配置や地域との関係、学校規模に関する基準、通学に関する基準などの指標をもとにして、地域の特性・歴史あるいは地域コミュニティ、学校の施設改修等の計画等も含めて総合的に判断したいというふうに考えています。学級数、通学距離や時間といった客観的な数字だけではなく、地域の特性も十分に重視するということが本市の独自の視点です。例えば、地域からの強い要望、学校と公民館あるいは自治会の区域の整合なども十分重視して配置に努めていきたいと考えています。

教育委員会では、「学校と家庭が地域と一体となり、子ども達の育みはもとより、地域の将来を見据え、各地域の実情に応じた活力ある学校づくりを推進する」という考え方を設けています。そのため、まずは保護者や地域の皆様の多様な思いを地域全体の意向として集約される、学校のあり方を考える検討組織づくりを進めており、そこで導き出された責任ある方向性を尊重していきたいと考えているところです。福部中校区・鹿野中校区では、教育を考える会を設立され、将来の学校のあり方について意見集約されました。それを受け、校区審議会での審議を経て教育委員会に答申が出され、福部地域では平成28年4月に幼小中一貫校の福部未来学園が開校され、鹿野地域では平成28年6月に小中一貫校に向けた具体的な議論が開始されたところです。その他、神戸小学校区、明治小学校区、逢坂小学校区でも、教育を考える会を設立され、現在も地域での検討を進めておられます。

こうした学校のあり方を考える検討組織を設置していただいた後、議論に必要な情報については教育委員会として適宜情報提供させていただきたいと考えています。また、検討組織での議論の様子を、逐次教育委員会の諮問機関である校区審議会等にお伝えし、校区審議の参考にしていただきたいと思います。逆に、校区審議会での審議の様子も地域の検討組織にお伝えしたいと思いますし、場合によっては校区審議会の委員等が検討組織の皆様のもとに出向いて、意見交換をさせていただくこともあるかと思います。

検討組織で議論されて一定の合意がなされ、集約された方向性を教育委員会等にお届けいただいた後は、校区審議会等でその中身を審議していただく



ことにしています。校区審議会の審議を経て教育委員会が答申を受け、教育委員会としての方針というよりも、「学校のカタチ」を決定するという流れになると思います。学校のカタチを決定するにあたっては、地域に望ましい学校づくりを実現するという方向性を持って取り組んでいきたいと思っていますので、皆様と調整しながら進めていきたいと考えています。

検討組織においては、あらゆる可能性を検討していただくこと、また、責任ある発言と実現に向けた取り組みを期待しており、校区審議会では検討組織が出した意見を尊重させていただくことにしています。そして、教育委員会では検討組織が導き出した方向性に沿った学校像の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

校区再編については、皆様がさまざまなご意見をお持ちだと思います。だからこそ、地域で十分にご検討・ご議論をいただきながら本市と地域との意見交換、情報の共有化を図ったり、連携を深めながら学校のあり方を十分に検討していきたいと考えています。

(地元意見)

瑞穂小学校は耐震改修をしなくても大丈夫なのですか。

(教育委員会事務局次長)

耐震性は十分あります。

(地元意見)

通学1時間以内が基準の1つとのことですが、これは徒歩を想定しているのか、公共交通機関の使用も想定しているのかどちらですか。

(教育委員会事務局次長)

小学校4km、中学校6kmで概ね1時間と説明させていただきましたが、これは自転車等を想定されています。

通学手段の検討が特に必要な地域もありますので、徒歩、自転車、公共交通機関のどの方法でも、概ねこの時間内で通学される範囲と認識しています。

(地元意見)

一昨年、中学校の統合の話が突然出て、大騒動になったことを記憶しています。あんな頭ごなしのようなことが絶対にならないようにしてください。

(教育委員会事務局次長)

統合ありきではなく、どういった学校のあり方が一番よいのかということを経験の中で十分ご議論いただいた上で、教育委員会、あるいは校区審議会等々で十分検討を重ねていきたいと思っています。決して頭ごなしということはありません。瑞穂小学校を将来どうしていくのかということを経験の中で十分検討していただきたいと思っています。

(地元意見)

中間まとめで「瑞穂小学校他4校が小規模化に伴う教育効果が懸念される」と報告されましたが、「教育効果」とはどういうことで、どういうことが「懸念」されるのか、またどのような統計や資料を基準にしてそのような結論を導き出したのですか。

(教育委員会事務局次長)

「教育効果」とは、小学校と地域との関係性の充実と少人数教育の効果ということです。瑞穂小学校は現在「複式学級」になっており、2年と3年が1クラスで学習をしています。こういった状況が教育にどうかということもあります。また少人数では社会性等がなかなか養われていけないというようなこともあります。そういった全体を見て、検討が必要だとのことで挙げさせていただいているものです。

(地元意見)

それは証明されているのですか。それとも、「そうではないか」と思っているということですか。

(教育委員会事務局次長)

瑞穂地区ではありませんが、例えばある学校では女子児童ばかり少人数で入学するといった状況があります。同学年で男女の交流が一切ない状況になります。また、もう少し子どもが少なくなって新入生が減少すれば、他の学校に通わせたいと考えられる保護者も出てくるかもしれません。少人数学校の教育面の効果もないわけではありません。実際に、小中一貫校である湖南学園は非常に学力が上がっています。ただ、湖南学園は複式学級ではないので、具体的にどういったメリットやデメリットがあるかという数字的なものは持ち合わせてはおりません。

(総合支所副支所長)

逢坂小学校では、一昨年、逢坂の教育を考える会を立ち上げました。すでに会議を9回開催しています。その中では小規模校の課題が論じられています。小規模校のデメリットとしては、社会性の部分や、多様な意見に触れることが少ないなどの点が挙げられると思います。ただ、逆に小規模校の良さもあります。子どもの成長に関わることができる地域の皆様の喜びなど、さまざまなことを議論しています。今後は逢坂地区の保護者の皆様を対象とした説明会を開催してご意見をいただき、いただいたご意見を持って各部落を回る予定です。そして部落でもご意見をいただき、最終的には今年度中にアンケートを取って方向性を決めたいというところまで話が進んでいます。

逢坂小学校は今、児童数が30名で今年の1年生は2名です。瑞穂小学校よりもさらに児童数が少ない状況の中で、非常に真剣な議論を重ねておられます。瑞穂地区も、小学校の将来を考えて、こういった取り組みをお願いしたいと思います。

(地元意見)

小規模校のデメリットを情報としてたくさん提供してもらわないと、地域の人だけで話していたのでは、いつまで経っても「地域の中核がなくなるし寂れるので小学校を残し

てほしい」という話しか出ないと思います。瑞穂地区には考える会ができていないのでまだ分かりませんが、年輩の人が集まって話せば、統合の話は全く出てこないと思います。

統合するとどんな良いことがあるかなどの情報をもっと提供してもらえれば、地域の人も、もっとそういう方向に向かって話し合いができると思います。

(教育委員会事務局次長)

検討組織のあり方の問題だと思いますが、他の組織では、小学校の先生や保護者代表、地区会長さんなど、幅広い年代からご意見を伺うような組織づくりをされています。

なお、検討組織を作られたら、教育委員会からいろいろな情報を提供させていただくようにしますので、その中で十分な議論を積み重ねていただきたいと思います。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

2日ほど前に総合支所に行きましたが、不便です。トレーニングセンターに行ったり第2庁舎に行ったりしなければいけないし、場所が狭く落ち着いて話もできません。今後の総合支所のあり方を教えてください。

(深澤市長)

先日、気高町総合支所で火災が発生し、地域の皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけしています。私からもお詫び申し上げます。狭くご不便とのことですが、こういった状況を解消すべく、1日も早い復旧を目指しています。

平成16年11月の市町村合併により、今、鳥取市内には8つの総合支所があります。総合支所については、地域振興及び防災の拠点として今後も存置していくという方針を打ち出していますが、改修等も含めどういった方向を目指していくかについて、内部で協議したり地域振興会議等で議論をいただいたりしながら検討を進めているところです。気高町総合支所についても地域振興会議等でご議論いただきたいと思いますと考えており、その中で地域の皆様からのご意見もいろいろな形でいただくこととなりますので、よろしく願います。

(総合支所長)

7月26日に地域振興会議を開催し、今回の火災のご報告をさせていただきました。総合支所の耐震化についても議論していますので、区長様にも説明させていただき、地域の皆様にも情報提供させていただきたいと考えています。

(地元意見)

今は、落ち着いて話もできない状況です。狭いため、ちょっとした会議なども開催できないと思います。今後、総合支所が復旧するのにどれだけ時間がかかるか分かりませんが、その間の総合支所の業務や会議などはどうするのですか。

(総合支所長)

今現在、地域振興課は第2庁舎の2階会議室にいます。1階の突き当たりは西工事事務所が入っていますが、場所を調整しながら地域振興課を1階に移動し、2階会議室は会議等でご利用いただけるよう、なるべく早く復旧したいと思っています。

トレーニングセンターに移動している市民福祉課と産業建設課と地域振興課の出納業務については、今後の予定がまだはっきり決まっていません。ただ、水道料と下水道料の収納事務がトレーニングセンターに入っているため、市民福祉課と産業建設課は同じ場所にある方が便利ではないかと思っておりますので、当面はトレーニングセンターで業務をさせていただきたいと考えています。

(地元意見)

前回の地域づくり懇談会でも発言しましたが、気高の道の駅の進捗具合を教えてください。私は先日会議に出席しましたが、ある程度の方向性を今年決めて来年実施設計という計画のようです。

私もいろいろな道の駅を見ましたが、見た目がとても良い所と、ほんの直販所のような所もあります。直売所のような見た目でも地元で流行っている所もあります。また、サービス面でも接客が丁寧な所とそうでない所もあります。そういういろいろなことを参考にし、皆さんの意見も聞いて、より良い道の駅を作ってほしいです。

(総合支所長)

7月13日に西ブロック会議が開催され、説明がありましたのでご報告します。

今現在、「(仮称)気高道の駅」は、「鳥取西道路の開通を契機として地域の課題を解決するきっかけとなり、地域活性化につながる道の駅」、また、「山陰道利用者の安全確保のための休憩施設になるだけでなく、鳥取市の西の玄関口としてのおもてなしの施設」、そして、「鳥取市西地域、気高、鹿野、青谷における新たな中心的拠点形成」の3点を整備の方向性として進められています。現時点では、平成31年3月までにオープン予定です。会議では、魅力のある施設を作ってほしいというご意見が多くありました。

今年度は、基本設計、用地購入、用地調査、用地測量、各種許認可が進められています。

皆様のご意見をいただく機会として、気高町、青谷町、鹿野町でワーキンググループを設置しています。7月と9月にワーキンググループで皆様からご意見を伺い、より良い施設を作っていくたいということで進めているところです。

(地元意見)

瑞穂地区まちづくり協議会では婚活事業を実施していますが、現時点で2名しか応募がないという寂しい状況です。1つには、ある程度周りが攻めていかなければ本人が行きたがらないということがあります。そうなるともうどうしようもないと思いますが、その攻めの部分を市に考えてほしいです。例えば、鳥取県が「とっとり出会いサポートセンター えんトリー」を設置しています。3月8日に開催した「瑞穂地区を語る会」にはセンターの事務局長をお招きして説明していただきましたが、登録者は3月時点で300人が400人という話だったと思います。登録料が1万円必要だが、3月までは無料とのことだったので、今はもう少し登録者が増えているかもしれません。

婚活事業に取り組むに当たり、まちづくり協議会が攻めていけないことが1つあります。それはプライバシーです。根掘り葉掘り聞くには、聞く側が信用の置ける人かどうかということもあるかもしれませんが、この部分について、行政がサポートできる人を雇用し、まちづくり協議会の役員が実際に引き合わせたり、親の相談に乗るといった役割分担をしてはどうかと思います。いわば協働のまちづくりです。個人的な提案ではありますが、対象者に積極的に働きかけるような部分を行政にしてもらえるとよいと思います。

鳥取県とのタイアップや、県と市と地域が連携することで婚活事業が強まればよいと思います。

(企画推進部長)

鳥取市も平成26年11月に「すごい！鳥取市婚活サポートセンター」を開設しています。婚活に向けた心構えやマナーをまとめたブックレットも作成しています。現在、会員数は約1,200人です。登録料は無料で、イベントの中で100組がカップル成立しています。成婚はまだ4組ですので、これからだと思います。また、出会いの場を作るイベントのための助成制度もあります。この周辺では、平成26年度に鹿野町の「童里夢」を活用してイベントを開催され、カップルが4組誕生したようです。このような事業を地域やまちづくり協議会で取り組まれている実績はあります。

「こういうやり方しかだめだ」ということはありませんし、県の制度を使われてもよいと思います。結婚したいという意欲を持った方が、本当に結婚できるようなお手伝いをしたいということです。成婚の実績数までは把握していませんが、補助金を活用した出会いの事業でも、かなりの数のカップルが成立しています。こんなやり方をしてはどうか、など日頃感じておられることをぜひご提案いただければ、市としてできる限りお手伝いしたいと思います。仲人については、視野に入れて検討しているものの設置はできていない状況です。

今後も地域の状況等を踏まえながら、我々も一緒になって検討していきたいと考えています。

(地元意見)

瑞穂小学校のPTA会長をしています。先日小規模校同士の話し合いがありましたが、瑞穂小学校がどこにあるのかご存知ない方が大半でした。鳥取西道路が開通したら瑞穂地区がいろいろな人に見られるようになり、小規模も解消されるのではないかと思います。

ただ、瑞穂線は路線バスが通らない状態であり、通学面で保護者の負担が多くなるため、敬遠されがちになるのではないかと思います。例えば、宝木駅までは来ることができても、そこから瑞穂までの交通手段がタクシーかバスしかなく、徒歩では1時間以内で到着しないということもあるかもしれません。その点が解消されれば、小規模校は自然が多く、マンツーマンのような指導がしてもらえるので、市街地から通いたい児童も増えるのではないかと期待しています。交通インフラに対して、鳥取市はどこまで補助してもらえるのでしょうか。

(総合支所副支所長)

小・中学校遠距離等通学費補助制度があります。これにより、例えば小規模校転入制度を利用され保護者が瑞穂小学校まで送迎される場合は、ガソリン代相当額について補助するなど、子どもに合った学校に通っていただけるよう支援しています。

ただ、鳥取地域から瑞穂小学校に通学するには宝木駅からの交通手段がなく、難しい現状であると思っています。

(地元意見)

国道9号沿いを通学する小・中学生がいますが、ガードレールや外灯がとても少なく、夜道がとても危険です。外灯がない所では本当に見えずヒヤッとする場面がたくさんあるという保護者の声も聞いています。外灯については要望して設置されましたが、数が全然足りません。ガードレールも全然足りません。

学校から要望が出れば優先されるのでしょうか。優先順位があるなら教えてほしいです。

(総合支所副支所長)

一昨年、学校、地元、教育委員会、警察、県と一緒に瑞穂線の通学路安全点検を実施しました。また、国土交通省と一緒に国道の点検もしています。その結果、下坂本にある信号付近には新たにガードパイプが設置されましたが、そこから西側の通学路については、縁石部分がガードレールの代わりをしているので設置基準に満たないとの回答があり、設置が見送りになったという経過があります。ただ、途中にある横断歩道について、もう少し目立つよう、光る素材が入った塗料を使用して再塗装していますし、横断歩道に至る道路についても、自動車に減速していただけるようマークを付けるといった改良を実施しています。

外灯については実際に要望をいただいています。県道については必要な箇所であれば県が設置しますが、その他に部落内の防犯灯扱いになる所があります。それぞれ設置場所の集落が負担していただけるのであれば、設置工事は市が実施していますが、集落によっては、自分の集落には子どもがおらず他集落の子どもが通過するだけの所もあります。そのため、設置後の電気代の負担について折り合いがつかず、設置できていない箇所があるのが現状です。こういった点について、逢坂地区では地区で負担するよう協議されて設置された経過もあります。瑞穂地区でも、公民館や区長会で、設置集落だけの負担にするか一緒に負担されるかなどの協議を進めていただき、話がつけば設置は市が行いますのでよろしくをお願いします。

(地元意見)

矢口の信号から矢口バス停まではガードレールが設置されましたが、矢口バス停から気高中学校側は全然ありません。たくさんの中学生が通学していますし、事故もよく発生しています。気高中学校の信号周辺になると少し広がりますが、そこに行くまでの日光の道路は狭いです。設置基準はよく分かりませんが、要望できるものならやはりガードレールの設置を検討してほしいです。

(総合支所副支所長)

通学路の危険箇所の整備は、学校を通じて地区から要望いただき、市の協議会で取り上げたものについて関係者が一堂に集まって点検し、必要であれば対策するという制度です。

国の基準を超えた設置となれば国に要望していくことになります。今年はいよいよ点検を行いますので、改めて点検の必要性があると認められ、点検箇所に追加できれば追加して点検し、必要なものについて国に要望していきたいと思っております。

(地元意見)

一昨年の点検の時には、国道の方は10cmの太いガードレールは水路があるため設置できないという話でしたが、矢口の信号からバス停までは縁石に穴を開けて設置されています。同じ形でバス停から日光側まで設置すればよいと思っております。

(総合支所副所長)

気高中学校の坂の方は8月下旬に点検する予定ですので、その中に追加し、国土交通省の検討に入るかどうか伺いたいと思っております。

(地元意見)

総合支所の火災発生時に防災無線が機能していなかったように思います。自家発電設備などは考えないのでしょうか。実際の台風や災害が発生した時に、防災無線がどの程度機能するのか教えてください。

(総合支所長)

総合支所2階の火災発生時には大変ご迷惑をおかけしました。

火災発生時、職員は1階で業務をしており、火災報知機が鳴り消火器を持って2階に上がった時には煙でいっぱいになっていました。本庁舎には放送設備があるのですが、建物内は危険だとのことで職員を屋外に退避させました。また、第二庁舎に防災無線の本体があり、本来はそこから火災発生時の放送をすればよかったのですが、全員が安否確認に懸命になり、住民の皆様へのご連絡を怠ったというのが現状です。今後このようなことがないよう、気を付けたいと思っております。大変申し訳ありませんでした。

台風や自然災害等については、警報等が出た時点で職員が総合支所の方に待機しており、すぐに防災無線で放送できる態勢にしています。また、自家発電装置もあり、停電時等には防災無線に優先的に電気がいくようになっています。

(地元意見)

防災無線のデジタル化について、今後の計画を教えてください。戸別受信機がなくなると聞いています。

(防災調整監)

防災無線のデジタル化については、今年度、青谷で工事を進めています。来年度は気高地域と鹿野地域に着手する予定です。

デジタル化されると放送は屋外スピーカーのみとなり、現在皆様のご家庭に設置されて

いる戸別受信機はなくなります。ただし、地区公民館や、区長、民生委員、消防団のご家庭などには、確実に伝達するため戸別受信機を設置します。併せて、例えば集落に10世帯しかないなど、屋外スピーカーを設置するより戸別受信機を設置した方が経費削減できる場合にも、戸別受信機を設置することがあります。

気高地域のデジタル化工事は来年度の予定にしていますので、設置場所等はその際にそれぞれ説明させていただきます。

(地元意見)

今、家庭の窓ガラスがペアガラスになっていて、外の音が入りません。屋外で放送されても、スピーカーのすぐ近くの家しか聞こえないのではと思います。アナログでよいので、今までのスタイルの方が、よほど当てになると思います。

(防災調整監)

風などの屋外の状況によって屋内にいると聞こえない状況もあるかと思いますが、緊急情報をお伝えしたり皆様が入手される手段としてはテレビやラジオなどもありますので、防災行政無線は、緊急情報を皆様にお伝えする手段の一つだとお考えいただきたいと思います。さまざまな伝達手段がありますので、そういったものを組み合わせてお伝えしたいと考えています。

(地元意見)

再度メリットとデメリットを整理しないと、本当によいことかどうか疑わしいです。

(総合支所副支所長)

防災無線については、気高町総合支所が今年中に説明に回らせていただきます。

(地元意見)

瑞穂地区と浜村地区が毎年鷲峰登山を開催しています。頂上は鳥取県が草刈りをしているようですが、木が大きくなっていて周囲が全く見えません。瑞穂地区や浜村地区以外の方も、多くの方が登られる山です。以前は頂上から鳥取方面が見えていました。県管理だと聞いていますが、もうすこし鳥取方面でも見えるように要望してほしいです。

(担当課補足：鹿野町総合支所産業建設課)

今年5月に開催された地元団体主催による鷲峰山登山において、参加者（登山者）から眺望改善の強い要望がありました。

このため、所有者（国有林：林野庁中国森林管理局）及び管理者（借受：鳥取県東部生活環境事務所）へ、眺望改善のための樹木伐採を働きかけており、現地踏査を実施しつつ協議を進めています。

8 市長あいさつ

それでは一言お礼のご挨拶を申し上げます。

限られた時間でしたが、熱心にご議論、ご質問等いただきましたことに、心から感謝申し上げます。

最後に鷲峰山の頂上については、管理者を確認した上で、ご質問いただいた趣旨に沿えるよう取り組んでいけるよう検討したいと思います。また、防災行政無線については、方式によっていろいろなメリットやデメリットがあると思いますので、そのあたりも、総合支所がご説明させていただく際にしっかりお伝えしていきたいと思います。何よりも、災害が発生した時に1つの情報伝達手段だけでは十分ではないと考えていますので、現在予定している屋外拡声子局と戸別受信機の方式を補完するような情報伝達手段等についても、今後も引き続き、しっかりと考えていきたいと思います。

学校の統合問題もなかなか難しい問題です。地元の皆様による検討組織でのさまざまなご議論も尊重させていただき、何よりも将来を担っていく子ども達にとってどういった選択が一番よいのかといった視点で我々もしっかりと考えていかなければならない非常に大切な重要な問題だと思っています。

熱心にご議論いただいたことに心から感謝申し上げます、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。